

会長就任にあたって



友田 陽 茨城大学大学院理工学研究科 教授

この度、第95回通常総会において第49代日本鉄鋼協会会長に選任され責任の重さを痛感しています。1915年に設立された本会は鉄鋼に関する科学技術の発展に多大な貢献をしてきました。私は約40年間にわたって鉄鋼材料の研究を続けることができ、本会には大変お世話になりました。浅学非才で能力をはるかに超える役目を仰せつかりましたが、会員の皆様のお力をお借りして、今まで育てていただいたご恩返しに精一杯努力して参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

近年、世界の鉄鋼生産量は中国、インド等における経済発展に伴って、過去に見られなかった急激な増加を示し、社会基盤材料として必須である鉄鋼材料の重要性は益々高まっています。一方で、地球環境を守り持続可能な循環型社会を構築することが焦眉の課題となっています。

わが国の鉄鋼生産技術は世界最高水準にあり、国内鉄鋼メーカーは高機能・高品質材料を高エネルギー効率で製造し、鉄鋼製品のみでなく自動車をはじめとする多くの産業の国際競争力を高める原動力になっています。現在の高い技術水準は、30～50年前の先輩諸氏による研究成果と生産現場における優秀な技術者の活躍によるものと思います。こうした地位を維持確保していくことが我々の責務と考えております。原材料の価格高騰と低品位化、レアメタルの資源枯渇、地球温暖化ガス排出規制、経済の急激な変動等々、鉄鋼産業を巡って大きな課題が出現しておりますが、これら諸課題に対して数10年先の目標を見据えて対応することが大切であろうと思います。

本会は学会部門と生産技術部門を車の両輪とし総合企画部門が舵取りをする3部門の協力によって力を発揮してきました。基礎研究を大事にして鉄鋼製造プロセスや製品開発に応用・展開してゆく伝統あるスタイルで産学官連携を一層強めて行きたいと思ひます。

「鉄鋼の研究はやりつくされ、今さら研究する余地があるのか？」という極論を聞くことがありますが、まだまだ大きな発展の可能性を秘めていると思ひます。特に技術革新による環境調和性向上(エコマテリアル化)が社会に与える影響は大きいものがあります。常に最先端の計測・解析技術や計算工学的手法等を取り込んで研究開発を進めることが、我が国が世界をリードし続けるために最も重要であると思ひます。

本会の欧文誌 ISIJ Int. は鉄鋼の研究に関する世界最高水準の学術誌ですが、さらにインパクトファクターを上げ、世界の鉄鋼技術のハブにしたいところです。多くの研究者にまず読んでもらうために Web 無償公開が、掲載論文の質の向上のためにシニア査読者制度や査読報奨金制度の導入が講じられました。投稿・査読・掲載の迅速化のために手続きの電子化も始まりました。本会が世界の鉄鋼科学技術の情報発信拠点となり、国際会議のみでなく春秋の講演大会等にも海外からの参加者が増えるようにしたいものです。

優秀な若手人材の継続的な参入・成長が鉄鋼科学技術発展の要です。講演大会における学生ポスターセッションに始まり、学生鉄鋼セミナー、鉄鋼工学セミナー、同専科、同アドバンストコースと体系的な育成制度が整備されてきました。さらに各支部においも湯川記念講演を始めとして活発な活動がなされています。また、将来にわたって鉄鋼科学技術のバイブルとなることを目指して、「第5版鉄鋼便覧」および「鉄鋼と合金元素」関連書籍の編集が100周年記念事業の一環として始められています。

本会活動の主役は会員の皆様です。各位の叡智、創意工夫が生かされるように、形式張らずに実質的で効率的な運営に努めたいと思ひます。ご支援、ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。